

## 令和5年度第3回府中市障害者計画推進協議会会議録

日 時：令和5年10月13日（金）午前10時

場 所：府中駅北第2庁舎3階会議室 / Web 会議

出席者：（敬称略）

### < 委員 >

曽根直樹、高橋美佳、長崎昌尚、永井雅之、北條正志、吉井康之、  
中川さゆり、山口真佐子、林比典子、中嶋佳代、藤間利明

### < 事務局 >

福祉保健部長、障害者福祉課長、障害者福祉課長補佐兼生活係長、  
地域福祉推進課長、地域福祉推進課長補佐

障害者福祉課主査（3名）、障害者福祉課主任（1名）障害者福祉課  
事務職員（1名）

株式会社名豊

傍聴者：なし

議 事：

1. 前回の会議録について 【資料1】
2. 府中市障害福祉計画（第7期）・障害児福祉計画（第3期）素案（案）について 【資料2】
3. 府中市児童発達支援センターについて
4. 障害者計画の進行管理について
5. 重点施策について 【資料3】
6. 障害福祉計画（第6期）・障害児福祉計画（第2期）進行管理について 【資料4】
7. その他

資 料：

### 【事前配布資料】

- 資料1 令和5年度第2回府中市障害者計画推進協議会会議録（案）  
資料2 府中市障害福祉計画（第7期）・障害児福祉計画（第3期）素案  
資料3 障害者計画進行管理一覧表  
資料3 重点施策の進捗状況  
資料4 障害福祉計画（第6期）・障害児福祉計画（第2期）  
進行管理一覧表

## 【当日配付資料】

次第

席次表

修正版 資料 1 令和 5 年度第 2 回府中市障害者計画推進協議会会議録  
(案)

修正版 資料 2 府中市障害福祉計画(第 7 期)・障害児福祉計画(第 3  
期)素案

修正版 資料 3 障害者計画進行管理一覧表

開会

事務局:本日はお忙しい中ご出席を賜り誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただ今より令和 5 年度第 3 回府中市障害者計画推進協議会を開催いたします。本日司会を務めさせていただきます府中市福祉保健部障害者福祉課課長補佐の古田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。本日はオンラインと併用で開催いたしますのでご承知くださいますようお願いいたします。本日、委員 18 名中現在 12 名にご参加いただいております。本協議会規則第 4 条第 2 項に規定する定足数を満たし、会議が有効に成立しておりますことを報告いたします。また、深井委員、相賀委員、西脇委員、渡辺委員より欠席とのご連絡をいただいております。本日、山口委員が WEB 参加予定で、藤原委員は会場に出席の予定となっております。ちょっとまだお見えになっていない状況でございます。本日の会議はおおむね 2 時間程度を予定しております。皆様ご理解とご協力のほどをよろしくお願いいたします。まずお手元の資料を確認させていただきます。事前に皆様に送付しております資料は、資料 1「令和 5 年度第 2 回府中市障害者計画推進協議会会議録(案)」、資料 2「府中市障害福祉計画(第 7 期) 障害児福祉計画(第 3 期)素案」、資料 3「障害者計画の進行管理について」、資料 3 - 「重点施策について」、資料 4「障害児福祉計画(第 6 期) 障害児福祉計画(第 2 期)の進行管理について」、そのほか本日机上にご用意いたしました資料は、今回の次第、席次表、修正版資料 1「令和 5 年度第 2 回府中市障害者計画推進協議会会議録(案)」、修正版資料 2「府中市障害福祉計画(第 7 期) 障害児福祉計画(第 3 期)素案」、修正版資料 3「障害者計画の進行管理一覧表」となります。ここまで資料で過不足等ございましたら挙手にてお知らせください。本日、追加で 1 枚 A4 横の府中市子ども発達支援センターという紙もお配りしてございます。また本日、障害者計画、障害福祉計画、障害児福祉計画の冊子、青色のものをもしお持ちでない方がいらっしゃいましたら、お貸しい

たしますのでこちらについても挙手にてお知らせください。よろしいでしょうか。本日の傍聴についてでございますが、傍聴の希望の方がいらっしゃいませんでしたので、これより議事に入ります。進行は曽根会長にお願いいたします。

会長：はい、会議を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。まずオンラインでご参加の星委員はこちらの声聞こえていますか。委員、もし聞こえていたらマイクをオンにして、何かちょっと聞こえていますとか言っていたらとありがたいですけど。

委員：本日はよろしくお願いいたします。ごめんなさい、今ちょっと音声 少し聞き取りにくくてですね。申し訳ありません。

会長：こちらから見るとカメラがオフになっていて、お顔も見えない状態ですが、このまま会議にご参加ということでよろしいですか。

委員：はい、大丈夫です。よろしくお願いいたします。

会長：ご発言があるときは、どうしましょう。手を挙げるとかリアクションができるようになっていたと思うのですが、それで教えてもらうことでいいですか。もしご意見があるときは、カメラをオンにされるか、あるいは何かマイクをオンにして意見がありますと言っていたか、あるいは手を挙げるとかというボタンで教えていただくか、何かこちらに分かるようサインを送ってください。何もリアクションがないと心配になります。では始めさせていただきます。今日はこの計画の検討最終回なりまして、来週の19日の日にこちらの委員会で検討した素案を市長に答申するという流れになっています。ですので、前回も少しお伝えしましたが、今回は何か大幅な計画内容の変更に関するご意見というよりも、細かい点で修正が必要な部分とか、そういった点について具体的にこういう文言で書き換えたほうがいいじゃないかというご提案をいただきたいと思っています。はい、では。それとあと議題が今日7番までありますけど、なかなかそれぞれボリュームがある関係で、今日一番やらなくちゃいけないのは、この素案を取りまとめるということですね。その次の発達支援センターのご説明というのは、今日事務局のほうで行いたいということでしたので、時間がかかってしまった場合はこの辺まで、もし時間があったら4番目の障害者計画の進行管理についての途中ぐらいまでやりたいなど

いう見通しでありますので、皆様もそういった目安で考えていただけたらと思います。

## 1 前回の会議録について

会長：では最初に、前回の議事録の確認を事務局からお願いいたします。

事務局：はい、では本日お配りしました資料 1 第 2 回の会議録をご覧ください。  
こちらですが、修正をいただいております、資料に下線部を引かせていただいております。資料としては 7 ページの下段のところ、続いて 12 ページの上段部分です。次が 27 ページの真ん中より下の部分のところに、修正をさせていただきます。ご承認いただきましたら、所定の手続きの上、会議録の公開を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

会長：はい。いずれも委員のご発言の部分ですけども、委員よろしいですか。

委員：はい。

会長：他の委員の皆様も大丈夫でしょうか。はい、ではご意見大丈夫ですので公開の手続きをお願いしたいと思います。

## 2 府中市障害福祉計画（第 7 期）・障害児福祉計画（第 3 期）素案について

会長：では続きまして本日の 1 番の障害福祉計画（第 7 期）と障害児福祉計画（第 3 期）の素案についてですけども、まず障害福祉計画の素案の 1 章、2 章についてご説明いただいて、そこで一旦ご意見やご質問いただきたいと思います。次の第 3 章のご説明と、最後に第 4 章の障害児福祉計画のご説明というふうにこの内容 3 つに分けて進行していくのでよろしくお願いいたします。では最初に 1 章、2 章について事務局からご説明をお願いいたします。

事務局：では素案をご覧ください。前回の協議会で正副会長にご確認いただいたのちに委員の皆様へ確認の依頼をさせていただきます。また、並

行して市役所内、各担当課への照会をしまして回答を受けております。こちらですが、数値や表の見切れが複数ありまして、こちらコンサルのほうへ修正依頼しております。ご意見出たのち修正した箇所についてご説明いたします。では、1章と2章の修正箇所をまとめてご説明します。まず本日お配りしました当日資料です。最初の目次のところです。目次の第2章の2番ですが、本市の障害福祉に関する課題というところで今まで記載していたんですけれども、内容について検討してまいりますですとか、努めてまいりますというような未来に向けての方向性が示されているというところで、方向という言葉を入れたらどうですかという意見いただきまして、こちらその内容を反映させていただいております。こちらですが、障害者計画の時も課題と方向というところが記載されておりますので揃えた形で修正を検討しております。続いて1ページ。計画策定の趣旨についてというページの上から8行目のところ、修正箇所に下線部を引かせていただいております。こちらは前回協議会でご指摘いただきましたところですが、修正が漏れておりましたので、申し訳ありません、こちら生活困窮者等というところで、「は」の挿入が漏れておりましたので修正いたします。続いて6ページ。計画の策定体制のページのところで、(2)のアンケート調査の実施というところですね。真ん中の行で令和5年3月7日からというところが、前は記号での記載になっておりましたが、ひらがな表記で反映させていただいております。続いて(3)の計画策定の市民参加、こちらですがパブリックコメントの実施日を記載したほうが良いというご意見がありまして、こちら日程が決まりましたのでこのような形で表記したいと思います。令和5年の11月22日から12月21日までの30日間の予定になっております。続いて13ページ。精神障害保険福祉手帳所持者数の推移というところで、こちらですが下から5行目のところですが、1度と記載してありましたのを1級というところで修正しております。失礼いたしました、こちらはもともと1級と修正されていたようでしたので、このまま1級で進めさせていただきたいと思っております。続いて18ページ、こちらが先ほど最初にご説明しました目次の変更とともに修正をしております。その下の「地域における見守り支えあいの推進」というところで、こちらは地域福祉推進課よりご意見いただきまして、内容を修正しております。続いて20ページ。「生涯学習、文化芸術活動、スポーツの機会の確保」。こちらは文化生涯学習課よりご意見いただきまして下線部のところを追記しております。次の21ページ。下のところの「権利擁護の推進」。こちらもご意見をいただきまして内容を書き換えております。続いて22ページから23ページかけて、下のほ

うの 情報提供体制の充実というところで、下線部のところ 22 ページのところは採用するとともにというところを入れさせていただいておりまして、23 ページの上の部分、地域と社会の間にアルファベットが入ってしまっておりましたので、そこを削除させていただきます。続いて 23 ページ、そのまま下のところの 安心して生活できる環境づくり。こちら当初は、住宅課で行っております事業を住まいの確保につなげるよう記載する予定でしたが、ご意見をいただきまして内容を少し修正しております。また、内閣府の第 5 次障害者基本計画にも掲載されているというところで、市の各部署と連携して進めていく施策の一つとして、新しく下のところにヤングケアラー等の支援体制も追記しておりますので確認お願いいたします。続いて次のページの 24 ページ、真ん中の 災害時の支援体制の構築と避難所の確保。こちらですが、当初、災害時の要援護者と記載されておりましたが、現在は避難行動要支援者という言葉を使っておりますので修正をしております。1 章と 2 章についての修正点は以上です。

会長：はい、ありがとうございました。ではこの 1 章、2 章についてご意見、ご質問ありましたらたらお願いいたします。はい、委員。

委員：おはようございます。よろしくお願いいたします。では、この新しい素案を見せていただきました。とても前回の計画書よりも簡単になっていて、とても見やすく、分かりやすくしていただいていると思って見せていただきました。ありがとうございます。それで私が思ったのは、目次が簡単、第 1 章、第 2 章までですけども、2 章の本市の障害者福祉に関する課題ということしか載っていないですけれども、このところ(1)から(6)番までの各項目をここに入れていただいたほうが、この本を読むのに読みやすいのではないかと思いますけども、その辺はどうなのでしょう。それと、その各事業の項目のところに関連計画で事業番号が入っているのですけれども、この事業の内容そのものというのは別紙でいただいて、この進捗状況ということで、進捗管理表でいただいていますけど、この計画についてはこの本には入らないのですか。今回は。この事業の内容それぞれは以前の本では、事業についてそれぞれ入っていたようでしたが、入らないのですか。質問です。

会長：はい、最初のご意見。目次に第 2 章の 2 本市の障害福祉に関する課題。1 から 6 をどこに入れるというご意見だったのでしょうか、もう一回教えていただいていた方がいいですか。

委員：下に１番から６番、それぞれの障害、そういうことです。（１）から２章の、（１）協働・連携で進める地域共生のまちづくりの推進とか、（２）が、障害がある人の社会参加の推進、（３）差別の解消、権利擁護の推進及び虐待の防止というテーマが、項目があります。それをこの目次のところに入れていただくのはどうなのかなと思って、言いたいのは、これは入り込みすぎていて見にくかったのですが、今回の細目が入っていないので、この２章の２番のところぐらいに、このそれぞれの括弧のところの項目が入っていたほうが分かりやすいのかなという気がしました。

会長：はい、ではそれがご意見ですね。

委員：はい、そうです。

会長：あと、その次のご質問。

委員：あと各事業があります。その２番の。

会長：何ページをご覧になっているのですか。

委員：２番の１章。

会長：ページで言っていていいですか。

委員：１８ページから本市の障害福祉に関する課題ということで（１）に、とありまして、その後に関連計画は障害者計画事業番号１から５って書いてあります。この事業番号１から５というこの事業の内容というのは前回の本にはそれぞれ全部この本に入っていたのですが、それは今回もう載せないということになりますか。

会長：例えば、こちらで言うとなんページをご覧になっていますか。青いほうで。

委員：青いほうでしたら。

委員：７０ページですか。

委員：そうですね。70 ページからあとの計画の基本目標に向けた取り組みと  
いうところで。

会長：事業名と事業番号が入っているということですね。

委員：もうこちらの新しい本には入ってないのですが、これは載せないの  
でしょうか。質問です。

会長：そちらは障害者計画の部分ということですね。分かりました。では事務  
局からご回答していただいてよろしいでしょうか。

事務局：はい、会長。まず1点目のご質問の第2章のところの(1)や(2)  
をいれるということにつきましては、この第2章に限らず他の章以降に  
についても同じ出し方をしないといけないと思いますので、どのくらい影  
響があるかも分量も踏まえまして検討させていただければと思います。

会長：はい。2つ目のご意見はいかがでしょうか。要するに障害者計画、今回  
見直しをしてないわけですね。ですので事務局の言うこととしてはこ  
ちらにその者計画があるから、それとこれを対照して見るような構成に  
しているということだと思いますけれども、おそらく市民の方から見  
ると、この2つの計画をこうやって見比べながら事業番号を理解するの  
はなかなか大変なことだから、同じように新しい計画にも載せたらどう  
だろうか、というそういうご意見でございいますか。

委員：これからもこれと新しいのと2つ見てくださいということ。

事務局：マイク通していただけますか。

委員：何か新しいほうを作るのであれば、もうこっちではなくこっちを見て  
いただければいいのかなと思ったのですが、この古いほうもこの部分につ  
いてはルールを見てくださいということになるということですか。

会長：おそらくそういう意図でこうなっているのかなと私は理解していま  
す。

委員：そうですか。



会長：事務局から。

事務局：今回は障害福祉計画と障害児計画のものになりますので、障害者計画のほうについては、すみません、青い冊子のほうで確認いただいてというふうには事務局側では考えておりました。分量の関係もありますので、またここから追加するとなるとかなりの作業になってくるかというふうには考えております。

委員：はい、わかりました。分量は少ないほうがいいと思うので、よろしいと思います。そのところはちょっと説明していただいたほうがいいかと思います。

会長：分冊になっていれば良かったかもしれないです。こっちも取っておいて、こっちと一緒に、そういうこと。

委員：ありがとうございます。

会長：あと山口委員がオンラインになりました。委員よろしくお願いします。聞こえますかこちらの声。委員こちらの声が聞こえてますでしょうか。何も反応がないということは聞こえてない。チャットで聞こえているかどうか確認していただいてよろしいですか。はい、では目次については、全体のボリュームも含めて検討してくださるということで、あと資料番号についてはこちらの計画と対照していただくということでよろしいでしょうか。はい、では他にご意見、ご質問がありましたらお願いします。障害者計画については、今回、変更の対象になっていないのでレイアウト上のことと言いますか、そういうことになってくるかと思います。しないようでしたら後で気が付いたらまたご意見いただければと思います。では第3章の障害福祉計画に移らせていただきたいと思います。こちら今回、計画があるわけですが、ではまず事務局から説明お願いいたします。

事務局：それでは3章の障害福祉計画の修正点についてご説明いたします。当日資料お配りしたものの28ページ、上から4マス目の、就労選択支援ですけれども、こちら前回の協議会で新しいサービス名だということが分かるような表記にしてほしいというところで修正をする形になりますが、事前配布したものに入れ込んでおりませんで、こちら注記をつけて記載をする予定になっております。続いて31ページ。こちら(1)の施設入

所者の地域生活への移行に関する目標のところの本文の説明のところですが、こちら印刷の関係上か、注記のところ大きい形で表記されてしまっておりまして、こちら小さい形での表記に修正をいたします。またその下の(2)精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築。このところですが、前々回ほどからほどから東京都のほうに照会をさせていただいております、こちらについては都より回答がございました。年内には何かしら数値を出しますというところでしたん回答を得ております。ただいつになるかですとか、そういったところの詳細は未定だということになっております。続いて32ページのところです。下の強度行動障害を有する人への支援体制の整備。こちら東京都のほうに照会をしております、こちらの回答は特段、数値目標は定めないという指標とすることで、支援体制整備を進める上で必要な人数把握の必要性を示しております。続いて33ページ。、上のほうで、一般就労への移行者数のところで下線部を引いたところの、定めています、その下の基本にしますということで語尾を揃えております。続いて43ページ。の精神障害者の相談支援、居住系サービスの利用のところですが、アンケート調査をする上で年月日を記載したほうがよいとのご意見でしたが、一度に送付するのは難しいということで順次進めていく予定でございます。ですので、下線部を引いた形で修正をしております。障害福祉計画の修正点については以上になります。

会長：はい、ありがとうございました。山口委員にはこちらの音声伝わっているのでしょうか。はい、今ご説明があったところについてご質問、ご意見ありましたらお願いいたします。はい、委員。お願いします。

委員：ご説明ありがとうございます。前から事務局の方にもいろいろただけたのですが、31ページの精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のところの数値が都から返答がないと教えていただいていたのですが、前回どうしたか私も分からなくて、それと同じようにするのかとかの回答ですので、数値を徹底しますというふうにするか、ちょっと何かしら書いたほうがいいのかと私は思っております。以上です。

会長：はい、ありがとうございました。確かにここに黒丸があるとなんだこれとなってしまうから、何か説明を少し足していただけるとよろしいでしょうか。回答があったら、そういう補足があれば。はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい、委員。

委員：ページ数で言うと 43 ページで、保健、医療及び福祉関係者による協議の場という項目の部分で、項目名一番上の保健、医療及び福祉関係者の協議の場の一年間の開催回数というところですが、この協議の場の名称というのではないですか。全員が集まるというのか、保健、医療、福祉介護、当事者、家族、このような要素があって開催する場というだけではちょっとあいまいで、どこの場を言っているのか分からないのに回数は 2 回となっているので、この集まる場の名称というのではないのですか、ありますか。

会長：はい、では事務局からご回答をお願いします。

事務局：はい、会長。こちらに書かれている協議の場についてですが、府中市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム連携会議の名称がついてあります。こちらの中に資料書き足すような形で対応をするような形でよろしいでしょうか。

会長：では今の会議名を明記していただくということでよろしいでしょうか。

委員：それで結構です。名称があるのなら載せていただければ、それでいいと思います。

会長：はい、ありがとうございます。ではそこは追記していただくということでよろしくをお願いします。他にいかがでしょうか。はい、委員。

委員：はい、北條です。先ほど 31 ページの黒丸のところは、注釈でということだったので、そうすると 39 ページの就労選択支援の空白も何か同じように最後まで示す形にはなるので、ちょっと欄外に注記を同様に入れていただくといいと思いました。はい、以上です。

会長：はい、ありがとうございました。新サービスのため、過去の実績がないとか、何かそういうことを少し追記いただくということでよろしいでしょうか。

委員：はい。

会長：ありがとうございます。他にいかがでしょうか。はい、委員。

委員：前に戻って申し訳ないですけども、6 ページ目の( 2 )アンケート調査の実施について、今回参考資料としてこのアンケートを添付できないというご回答をいただいたので、アンケートの結果が見たいという方がいると思うので、添付できないということであれば、ここにホームページの参照箇所等を追記していただだけませんか。

会長：はい、ありがとうございました。これアンケート結果はホームページ上で公開されているわけですね。ではそちらを。最近よく行われるのは QR コードで URL をつけてスマホで撮ると接続できるというのが一番簡便なやり方だと思います。では何等か工夫していただくということによろしいですか。

委員：はい。

会長：はい、ありがとうございました。はい、他にいかがでしょうか。はい、委員。

委員：先ほどの会議体の名称なのですが、ちょっと気になっていまして、これに一つ一つ名前つけて行ってしまうと、例えば会議体の名前が変わってしまったりとかすることができなくなってしまうのかのというふうに思っていて、かえて名前は入れないほうが私はいいいのではないのでしょうか。こういう会議、保健、医療、福祉関係者による協議の場ということで、会議体がひょっとしたら名前が変わっても、他にもこういう会議体もっていうふうになるのかなというふうに考えると、ここに会議体の名前を固定してしまうと、もうそれしかカウントできなくなってしまうので、あまり名称まで入れないほうがいいのではないかなと。多分、他にもたくさんそういう場というのがこれから出てくると思いますので、そうするとそれすべてに会議体の名前を入れるのかってなると、結構大変な作業かなというふうにも思いますので、私はあえて名称は入れずにこのままのほうが良いと思っております。以上です。

会長：はい、それはご意見でしょうか。

委員：はい、意見です。

会長：では、事務局いかがでしょう。抽象的な感じで置いたほうが、後で名称変更したときに対応しやすいのではないのでしょうか。例えばその名称が変わったときに計画上、実績のカウントができないということになりますか。それをご心配されてのご意見です。では名称変更されても同じ会議を指しているから実績としてカウントできるということであれば、それはそれでいいのかなと思うのですが、委員の心配が解消されると思うのですが、そこはいかがでしょうか。

委員：その他にもたくさん協議の場というのは出てくると思いますので、そうするとそのすべて、いくつか出てきているかと思うのですが、そこもすべて会議名を入れていくのかなということになると、これからやるのに大変な作業かなというふうに思います。

会長：委員のご指摘としては。

委員：ただその曖昧性ですとね。結局、何の介護をやって、ただ医療とか保険とか介護とか、そういう大まかな内容を会議の回数で打ってるみたいな形では、見た人が何をやっているかもわからない。やっぱり協議会の名前は必要と思います。

会長：ご意向としては、ちゃんと会議体の名称を載せてもらったほうがはっきりと明示的になって安心できると思いますか、そういったご意見かと思いますが、一応ここについては、もし会議の名称で掲載して仮にその会議の名前が変わったとしても、同じ会議を指しているんだから実績としてカウントできるということが確認できれば、そこについても吉井委員もよろしいですか。

委員：はい。

会長：事務局はいかがですか。会議体の名称を変える予定があるかどうか。

事務局：会議体の名称が変わる分についてはカウントが可能かと思うのですが、新たに別の会議を立ち上げたときに、そこが実績としてあるのに、この数値には入れられないというところも少し出てくるかとは思いますが、その取り合わせはどうするかというところもありますので。

委員：その他もついていきますけど 43 ページ。

会長：これは構成委員のことですね。構成委員でその他膨らんでいるのは、これは新たな質問だと思います。まずその会議体の名称について。委員、何かご意見。

委員：北條です。折衷案ですが、会議体名は載せる、等をつけてはいかがでしょうか。

会長：その辺はちょっとテクニカルなことになるので事務局のほうで少しご検討いただいて、家族会の気持ちとしてはきちんと名称を載せてもらったほうが安心できるということなので、そこは少し緩めて、さらに柔軟な対応ができるような工夫をお願いできたら。ではそれでよろしいですか、委員もよろしいですか。

委員：はい。

会長：委員もよろしいですか。はい、ありがとうございました。では他にいかがでしょうか。大丈夫ですか。よろしいでしょうか。またもしお気づきの点がありましたら、戻ってご意見をいただきたいと思います。第 4 章、障害児福祉計画のほうをお願いいたします。

事務局：申し訳ありません。障害福祉計画のところで、1 点ご説明し忘れてしまったところがありまして、51 ページの の見込み量確保のための方策、51 ページまでが障害福祉計画でしたので、下線部のところですね、文言の修正にはなるのですが、移動支援事業については地域生活の間に読点を入れるような形で修正しております。同じような形での修正も障害児福祉計画のほうでもありまして説明させていただきます。53 ページのところですね、 の保育所等訪問支援を利用できる体制のところも、令和 8 年度末までにと保育所等訪問支援を、の間に読点を入れております。また、障害福祉計画と障害児福祉計画の見込み量についてなのですが、こちらご意見ございまして、令和 5 年度についても実績が出ている部分までは記載すべきではというご意見がございました。ですので、現在令和 5 年度 4 月から 7 月までの月当たり実績を集計中でございます。こちらについては、評価や計画比までは出せないの、数値までにとどめさせていただ

きまして表記する予定でございます。その際には、表の枠外に注記にて令和 5 年度は 4 月から 7 月時点までの月当たり実績と記載する予定です。

会長：はい、ありがとうございました。では障害児福祉計画についてご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。読点が追加されたというだけでしょ。うか。いかがでしょ。うか。委員、何かありますか。

委員：今、4 章ですか。4 章の中の記載内容でいいですね。54 ページですけれども、医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置及びコーディネーターの配置に関する目標で、コーディネーター設置 0 ということで、考え方としては令和 5 年度、今ですね、3 月 31 日時点で 0 ということであると、これいつ 1 人以上の配置が予定されるかどうかというのを記載がないために、これずっとこういう形でなるとい。う憶測も出ると思。うので、その辺は何か記載することはないのでしょうか。

会長：一応その下の段に令和 8 年度末の医療的ケア児コーディネーターの配置数 2 とあります。

委員：ごめんなさい。字が出てますね。見落としていました。

会長：0 が計画値ですね。

委員：そうです。

会長：疑問を持つ。

委員：すみません。下を書いてあるのですね。間違えました。

会長：他にいかがでしょ。うか。はい、委員どうぞ。

委員：56 ページの放課後等デイサービスの実利用者数、サービス量ともに今後かなり増えていくという予想が出ていますよね。それで前のページの 54 ページに（2）主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業及び放課後デイサービス事業所の確保に関する目標というところで目標値が令和 8 年度末の重症心身障害児及び放課後等デイサービス事業所数 1 事業所なんですけれども、これで対応していけるのかどうなのかと思。ってい

ますけれど、今度1事業所が増えますということになりますか。市の初めてこの子ども発達支援センターというのはできますよね。こちらができてもう1か所何かできるというような話が聞いたような気がしますけど、この1事業所というのは子ども発達支援センターのことになるのでしょうか。それとも別に1事業所8年度末までにできるということでしょうか。質問です。

会長：では、ご質問。

事務局：まず56ページの(5)の放課後等デイサービスのサービス量の防火数に対して54ページの(2)の重症心身障害児を支援する放課後等デイサービスの事業所数が1事業ということで、この増加に対応できるかというところですが、54ページのほうはあくまでも、重症心身障害児を支援する放課後等デイサービス事業所になりますので、そういう意味では重症心身障害児以外を支援する事業所もございますので、ここが直接56ページとリンクするというわけではございませんので、1事業所増えることによって56ページの人数の増加数をカバーできるというところは直接リンクするところではございません。

委員：ありがとうございます。54ページのほうは重症心身障害児用ということで、そうしますと本当に今学校、不登校のお子さんとか発達障害のお子さんとかってすごく増えていてそちらに対応していく、この6年の来年できるという、子ども発達支援センターということになるということですのでよろしいでしょうか。それはもうこの1か所にとりあえずは、センターをもって対応してくださるということになるということですね。この1か所に対応してくださる。

会長：54ページにある重症心身障害児という状態像は重度の肢体不自由と重度の知的障害を重複している方なんですね。委員が指摘されているのはむしろ重度の肢体不自由を伴わない、例えば動きが激しい子どもさんとか、そういった子どもさんを念頭に置かれているのかなと思いますので、ちょっと状態像が違う方を。大体重症心身障害者の方って人口比1000分の1それぐらいというふうに、今、府中市が26万人、そうすると多分26人とかそれぐらいではないかと重症心身障害の方。さらに子どもさんということなので人数はかなり少ないと。



委員：ちょっと考え違っていたと思うんですけど、放課後等デイサービスの対象の人数というのは確実に増えていく予想が立っているわけですね。そこに対しての対応を丁寧にしていただきたいなと思っているものですから、その辺をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

会長：はい。わかりました。そこはおそらく児童発達支援というところと、56 ページの、放課後の場合は放課後等デイサービスとなるものですが、こちらのほう今後の利用者数の伸びというのを見込んでいますので、おそらく委員がご心配されていることをここで入れていこうということかと思いますが、事務局そういう理解でよろしいでしょうか。

事務局：はい。

会長：一応確認ということでよろしいですか。はい、ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、高橋さん。

副会長：はい。55 ページのサービスの見込み量の表の下の実績の月当たりというふうに米印で書いてあるのですが、前回これが、月はいつの月なのかというのが表記されていなくて、これは成人のほうもそうですけれども、前は平成 30 年度は 3 月分実績とか、令和元年度は月当たり実績というふうに、どこの月を取ってこの数値を出したのかが前は描いてある中で、それは載せていったほうがいいのかと思いました。

会長：はい、ありがとうございます。ではまずこれは特定の月なのか、平均なのかということを確認したほうがいいですか。事務局いかがでしょうか。

事務局：はい、会長。前回の計画のときですが、その数値の取り方が途中で変更になった関係で、平成 30 年度は 3 月分実績という形で詳しい詳細を載せていたのですが、今回については年の平均になりますので、1 年間の月当たりという実績になります。

会長：では月当たりという書き方のほうがむしろ適切とことでしょうか。

副会長：平均と書いたほうがいいのかと思います。月当たりはわかりづらいかと。

会長：実績は月平均。

副会長：そのほうが分かりやすいかなとは思いますが。

会長：分かりました。その辺はご検討いただいて、多分他の計画で同表記しているかということで兼ね合いもあるかなと思いますので、事務局のほうで分かりやすい表記があれば変えていただけたらと思います。他にいかがでしょうか。よろしいですか。これで計画案に対して意見を言えるのは最後になりますので、委員の方からお一人ずつ何かご意見がありましたら、あるいは今回策定しての感想でもいいですけども、短めにコメントいただいて次の議題に進めたらと思います。では委員からよろしいですか。

委員：はい、今回は、私は途中からで、プラザのスタッフがいろいろ変わって、ご迷惑をかけております。私のほうが計画の文言は上手くある程度は理解、数値的なところで弱かったかなと思うので、そのところを自分自身改善してまた取り組めたらと考えております。どうもありがとうございます。

委員：はい、先ほども話しましたが、今回の新しい福祉計画というのが、前回のものと何か、前回のものも参考にといいことらしいですが、とても分かりやすく記載していただけていてよかったと思っています。なかなか細かいところをよく把握できないところもあるのですが、やっぱりお子さんの、障害児、児童発達支援が今度初めてセンターができるということで期待しておりますけれども、やっぱり今、学校の中で不登校のお子さんが増えていますし、テレビのニュースでもやっていましたけれど、そういうお子さんたちに対応するという、やっぱりお子さんに小さいうちから障害と思わないで、一人一人にあった指導、対応をしていっていただくのが大事なことかと思っているので、その辺を忘れないでやっていただきたいと思っています。大変申し訳ないのですが、1点質問、疑問に思っているところ聞かせていただければと思います。前に戻って16ページに18歳未満の身体障害者手帳所持者のグラフがありまして、平成31年が一番突出して多いです。それからだんだん減少しているというところですけど、なぜ31年がこんなふうに突出して多くなったのかというところが、何か原因とかがお分かりでしたら教えていただきたいと思います。いろいろありがとうございます。

会長：ありがとうございます。確かに増えていますね。何かこう要因分析等あれば教えていただけたらと思います。どうぞ。

事務局：すみません。分析は行っていないのが現状ですが、市の人口の推移とリンクしているかも含めて、31年度だけ増えているところは確認していきたいと思っております。以上になります。

会長：はい、ありがとうございました。では委員お願いします。

委員：お世話になってます。皆さんそれぞれの立場で、すごくきめ細かいご意見を言うていただきました。せっかくできた計画なので、当事者とか、私が思うには家族とかが、苦勞しないでこういう情報にアクセスできるための、何かそういうルートがもうちょっとスムーズだといいと、本当に困っている人はだれにも相談できずに困っているという人もいるんじゃないかと個人的には思いました。やはり自然にというか、支援してくださいと当事者が言うのではなくて、こちらからありますよとアプローチできる仕組みが確立されれば本当は理想かなというふうに思いました。ありがとうございます。

会長：はい、ありがとうございました。委員お願いします。

委員：私が感じているのは、5ページをちょっと見ていただきたいんですけど、いろいろな計画があるわけです。障害関係計画については、5ページの下の方のように開始年度が揃っているが、第7次府中市総合計画とは、開始年度がずれている。各計画がそれぞれ単独に作成されているため、本来リンクしなければいけないことや、その計画に反映しなきゃいけないことが、どうしても期のずれによって、反映できていないということがある。複数の計画について、開始年度を揃えるというのは難しいことだとは思いますが、少しずつ揃えていただき、各計画が府中市総合計画に最終的に反映するようにしていただきたいという要望です。

会長：はい。ありがとうございました。期がずれているときの最終的には総合計画。そこへの反映っていうのは、実際にはどんなふうになっているのか、もしお分かりでしたら教えていただいてよろしいでしょうか。

事務局：そうですね、障害者計画のほう計画期間が決まっているところからな

かなか総合計画と開始年度を合わせるというところは、難しいところではあるんですけども、この障害者計画を詳細に分析して作成したものについて、その翌年に総合計画の開始年度が始まりますので、その検討結果を総合計画に反映させるという形で現状は動いているところでございます。

会長：この計画が総合計画に反映されているということでよろしいわけですか。

委員：私が目指したいのは、現在動いている第7次府中市総合計画に今回の障害関係計画の内容を反映して欲しいということです。今回の障害関係計画の内容を第8次府中市総合計画に反映するというのは、最低限必要なことですが、現在動いている第7次府中市総合計画に今回の内容を反映していただきたいという要望です。

会長：はい、ありがとうございました。では来週市長に答申がありますので、そこでこういうご意見があったということを経理にお伝えさせていただくということでよろしいですか。要するに、計画の途中でも必要なものは反映して、修正しながら進めていくような柔軟な体制を構築してほしいというそういうことですね。では委員。

委員：。質問を含めて確認をしたいのですが、今、私、自立支援協議会で地域部会でやっているのですが、その際に今、アンケート調査を行う予定で進んでいるところなんです。例えばそのアンケート調査の結果、地域移行の課題とか、そういったものが上がってくるんだろと予測しているのですが、例えばこの計画に載っていない新たな移行を進めるためには、社会資源が必要であったりとか、計画の数値とずれるような既存のサービス量が必要であったりとか、そういったものが出来た場合にどのような形で、例えば、計画はこれで数値は多分決まってしまうと思うので、その後の修正ですとか、そういったものが可能なのかとか、どういう形でその辺やれるのかどうかというのをちょっとお聞きしたいなというふうに思っておりました。

会長：はい、ありがとうございました。一応、国が示している指針ですとPDCAサイクルをしっかりとやっていきたいと思いますということで、必要があれば計画の途中でも見直して修正したいと思いますという事は示してはいますけど、

国がですね。事務局のほうはいかがでしょうか。計画の数値目標を途中で変えるべきじゃないかというふうになったときに、途中で見直していくというような対応というのはできるのかというご質問ですね。

事務局：そうですね、こちらの計画期間が3か年となっておりますので、数値を見直す場合、評価をして見直すっていう作業も入ってきますので、3年の間にそれができるのかというところもありますので、数値目標については期の終わりに評価っていうところもありますので、そこで数値に対する評価を行って次期計画に反映させるっていうのが今のサイクルになっておりますので、3年のスパンの中で数値を変えていくというのが実質的にできるのかなというところはございます。

会長：ありがとうございます。数値目標をそのままって、ここまでしかやりませんという目標じゃないわけですね。要するにそれを超えてやっても全然いいわけですから、もしここまで行ったら終わりですという計画であれば長崎委員のおっしゃるように数値変えないというのがあると思うんですけど、必要に応じて伸びていったものが最終的に実績として計画よりもさらに多く事業所ができたとか、利用矢が増えたとか、というふうにしてこれは進めていくものだと思うので、計画変えないとできからできないというふうな関係にはなっていないのではというふうには思いますが、どうですか。

委員：ありがとうございます。数値のところはそういった形ってことでよくわかりました。例えば新たな社会資源とかそういったものが、私は移行部会の所属なので、そこにフォーカスしてお話してしまいますけれども、そういったもの新たな社会資源が必要であろうという部分のものが出てきたときには、途中から計画にそういったものを入れるというものの自体は難しいのか、もしくは必要だってなったときにはこういった形でそれを反映していったらいいものなのかというのを教えていただければと思うんですが。

会長：新たな社会資源って言うと、例えば例を挙げるとしたらどんなものがありますか。

委員：はっきりはまだアンケート結果が出てきていないんで分からないんですけど、アンケートの中で話し合っているところでは、居住の、体験

の場みたいな、移行するにあたって例えば体験の場みたいなものがないと難しいのではないかと、そういった結果が出てくるかもしれないというふうに思っているのですけれども、今そういうのがなかなか施策にちゃんと位置付けられてはいないのかなと思ったりもしてまして、そういったものが必要というふうにされたときに、どのような形でそこを作り出していくか分からないんですけど、検討していくといいのかなというのを確認をしたいのですけれども。

会長：体験の場というのは、具体的に言うとうどういうものを指しますか。

委員：府中市にはないんですけど、他市だと生活拠点とかで体験の場であったりとか、今うちのケースで言ったのですが、府中市ではなくて、他市のサービスを使ってやったりとかしたケースとかも増えています。なのでそういったものが市の中でサービスとして現状ないものに対して、必要になったときにはこういった形で作っていくとか、していくといいのかなというのをお聞きしたかったですけれども。

会長：グループホームの体験事業とかとは違う。要するに例えば自立生活センターとかですと、自立体験施設というのを独自に作っていて、そこで一人暮らしの体験ができるようなことをやっている自立生活センターありますよね。この辺だと八王子とか立川とかそういうところで利用されていると思うのですが、それは制度外のことなので、法人というか事業所が独自にやっているものだと思います。だから制度外のものを例えば府中市で作ってほしいという場合にということですか。

委員：そうですね。そういったものが必要です。地域移行するためにそういったものがないとなかなか難しいですよという方がアンケート結果が出てきたときに、そういったものをこういった形で位置付けるように進めていくといいのかという進め方と言いますか、そういったものがこちらの計画に載っていないものだとしたらどうすればいいのかというのを含めてお聞きしたかったのですが。

会長：市の施策として進めるような場合、計画に載ってないものでも必要があれば検討していけるのか、というご質問かと思いますが、ここにあるのはあくまで一応、国が関する目標ですけど、いかがでしょうか。

事務局：あくまでも計画については、今ある現状のサービスについて、どういう結果になっているかというところを見ているものになるので、例えば給付以外の事業となると、今現状としては会長おっしゃられた通りで、それぞれの事業所において、事業所の努力で、訓練棟みたいなものも設けて、しばらくそこで体験をするというか自立した生活に向けての訓練をしていって社会に出ていくというような、地域に出ていくというような流れになると思うので、そういったものが例えば給付の事業として成り立つものなのかどうかということも関連してくると思うんですけれども、そういった事業が成り立つようであれば、改めて計画の中にも含めていく必要があると思っていますけれども、現状としてはまだ給付の対象外になりますので、まだ計画としては設けられないと思っているんですけれども、それ以外に何ができるのかとなると、市独自の事業としてやるかどうかの判断が出てくると思うので、そこは計画としてではなくて市の事業としてどう取り組んでいくかというところがありますので、例えば市独自の事業として成り立つのかどうかというところをまずは検討していくような流れになるのではないかというふうに思っております。

委員：どうもありがとうございました。

会長：はい、ありがとうございました。障害者計画のほうに地域生活支援拠点等の運営というのが入ってしまして、そこで体験の機会の場の提供とありますから、計画に入っていないということは。ただそれを市の予算で一般施策として具体的に進めていくといった場合は、計画があれば進むということではなく、当然、市の政策的な方針ですとか、さまざまな手続き含めて必要になってくるでしょうから、計画にあるないということではないかと私は思いますが、とにかく熱意をもって進めていただくのが一番かと。では委員。

委員：私からは、この7期を確認させていただいて、目標とかは盛り込めないものもたくさんまだあって、提案もこれからまたさせていただくのですが、今一度、家族会は少し活発化してきました。というのが東京都の八王子の精神科病院の虐待があって、かなり不安を覚えて病院にずっと預けていれば、本人にとって安心かということを思っていた家族たちが実際どうなのかということで意見が出てきてまして、この間も東京都の全体をやってる家族会の会合に出たんですけど、そこでも東京都に対する意見要望書もどんどん出していますし、今どうなっているのだ病院は、とい

う医療のほうの問題が出てきて、それに足してでは家族会はどうするかというと、病院任せじゃなくて退院できるのであれば退院させたいというご家族たくさん出てきてまして、病院が悪い、大変なんだっていうのではなくて、もう退院できるのであればそのぐらいの状態なら退院させたいという家族が今、多く声を上げてまして、病院のほうでも退院できるけどお家でみれるのとか、地域で見れるの、そういう状況で作れているのは言われるらしいですね。家族としては、家に連れてきてもやっぱり心配な部分もあって、地域で支えてもらいたいっていう声が多いです。こちらの方もですね、できれば退院したら、アウトリーチというか、こちらで法律できていませんが、そういう活動でちょっと具合が悪そうなときには訪問していけるグループというか、そういうものを作っていけば、安心してすぐ退院させたいという家族多いので、その辺は府中市議のほうはどんな考えがあるかと今思って、聞いてみたいと思います。

会長：それはご質問。

委員：そういう。

会長：退院してきた後のアウトリーチ的な支援。

永井委員：そういう支援が今、少し芽生えているかどうかというか。

会長：事務局、情報お持ちでしたら。

事務局：今、先ほども長崎委員から出ました自立支援協議会のほうで、精神病院に入院されている方向けのアンケートのほうを見ていただいたりとか、施設入所の方もアンケート見ていただいたりしているんですが、そのアンケートを使って退院の支援につなげていきたいと現在考えております。退院後のアウトリーチ的なところについては、東京都のほうでもアウトリーチ事業をやっていますのでそちらと連携しながらと考えておりますが、市独自のアウトリーチについては今のところまだ検討はできていない状況です。市内、市外も含めて訪問看護ステーションであったり、給付事業の地域定着支援等も使いながら退院された方が安心して地域で生活できるような体制を検討していければと考えております。以上です。

会長：はい、ありがとうございました。よろしいですか。



委員：はい。

会長：これは個別支援でも、自立生活援助とか訪問型の支援が増えてますので、ぜひ活用して進めていただけたらと思います。では委員いかがでしょうか。

委員：改めて福祉計画づくりに関わらせていただいて、当初の会議のときにどなたかおっしゃられた、この委員になる責任みたいなのをようやく感じてきたなというか、そういう責任を非常に感じています。そういう点で、やはり計画は僕の中ではここまでは最低限やるよってという計画ということかなと理解をしているんですけど、そのための進捗管理、進行管理もこの後大事だと思いますけれども、次の8期ということにつながるかと思うんですけど、やはり数値の計画に福祉計画はなるので、ベースになる数値の情報がもう少ししっかり取れていけたらいいというのは率直に感じています。他市の計画の検討がどうやってやられているのかを少し聞いたんですけど、やっぱり支援区分ごとの人数だとか、日中系だったらどれぐらいの支給決定者がいて、どこの事業所は定員がいくつあって、どれぐらいの人が利用してっていうデータを全部一覧で出してっていうようなことをやってるというふうに聞いたので、そういった必要性どれぐらいあるのかっていうのを測るためにも、やっぱり数値をもう少しきっちりしたものをも今後得られるようにしていくということは大事なのかなっていうのと、それから計画ができなかった課題は何だったのかっていうのも、本当はあるのかなと。僕の中では1つ、相談支援事業が多い。だけれども箇所数としては、見込みとしては、今回残念ながらそれほど高い数値は見込めていない。言ってみれば、計画はしたけれども、どうそこを増やしていくかはやっぱり課題として残ったのか。そういうものはやはり明らかにしておく必要があるかということも少し感じました。はい、以上です。

会長：はい、ありがとうございました。計画の評価と策定がつながっていない。評価する前に策定が入っていて、その辺がやはり少しやりづらいと思います。でも第6期が終わったらその辺しっかり。ありがとうございます。では委員お願いします。

委員：今回は、障害者計画の後期計画ということでこの3年間をどうしていく

かという目標の見直しところでもあったのですけれども、今回皆さんとご一緒に作らせていただく中で、先ほど林委員が言った目次の話なんかもそうなのですが、8年まで続いて障害者計画との整合性の関係でなかなか、ではこう変えようということも変えにくかったりということはあると思います。ただ次、令和9年度からの障害者計画を作るときには、ここで出た意見なんかも上手く反映しながら、見やすく、分かりやすくというような障害者計画になっていくといいかというふうに皆さんの話を聞きながら思いました。以上でございます。

会長：はい、ありがとうございました。ではオンラインでご参加の委員、何かありましたらご発言お願いします。声がこちらには届いていないようですが。

委員：今日はありがとうございました。今日、修正も含め皆さんのご意見いろいろ聞かせていただいて状況が分かりましたので、ためになりました。今後ともよろしく願いをいたします。ありがとうございます。

会長：はい、ありがとうございました。では委員何かありましたらお願いいたします。お顔は見えてますけど声が聞こえなくて。委員、こちらに声が届いてなくてご発言がちょっと聞こえなかったのもう一度お願いしてよろしいですか。もしかしたらマイクがミュートになっているとか、そういうことでしょうか。

委員：全然聞こえませんが、もしかしたら指名されてますか。

会長：そうです。指名されてます。

委員：すみません。マイクの声が所々とぎれとぎれで、申し訳ございません。対応が上手くできていないのではないかと心配しておりますが、山口です。すみません、入室するのにかなり時間がかかってしまいまして遅くなりました。大変失礼いたしました。私もずっと聞かせていただきましたけれども、非常に熟議がなされて会が順調に進行していきまして、私も大変皆様の思いを聞かせていただいて、勉強になりましたところです。今後とも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

会長：はい、ありがとうございました。では、計画策定については以上にした

いと思います。

事務局：会長、申し訳ありませんが、追加でご報告よろしいでしょうか。事前に協議会前に、委員の皆様からご意見あった方いただいているのですけれども、そちらの回答でまだしていないものがありましたので、ご説明させていただきたいと思います。素案 19 ページのところをご覧ください。

障害福祉サービス事業所への支援及び協働というところで、ここの内容で府中市障害者等地域自立支援協議会から答申がなされ、とありまして、ここの答申内容を記載したらいいのではないかというご意見があったところと、あと同じような形で 25 ページのところの、 の乳幼児期から学齢期までの、というところのなかで幼児期ケア児実態把握調査及びニーズ調査、ここの内容を記載したほうがいいのではないか。先ほどの計画策定に係る調査報告書と同じような形のご意見かなとは思いますが、こちらについては先ほどの調査報告書のほうでご説明ありました通り、URL ですか、両方ともホームページには掲載されている内容になりますので、ここのところは関連付けて記載できるかどうか検討したいと思っております。また、29 ページのところなのですが、サービスの内容のところ、地域生活支援事業の中の一歩下の地域活動支援センターというのがあるんですけど、こちらは地域活動支援センター機能強化事業というのが正式名称ではないかというご意見がございました。こちらですが、東京都のほうにも確認させていただいたのですけれども、内容が伴っていれば必須事業の名称については必ずしも同じにしくなくてもよい、という回答でした。こちら本市では、地域活動支援センター、4 センターがございまして、センターの運営としては基礎的事業と機能強化事業がありまして、さらに機能強化事業は 1 型、2 型、3 型、というところが定められております。機能強化訓練においては、人員配置等の施設としての強化の意味が含まれているというところ、ただ全センターで基礎的事業も並行して行っているところから、総称して市としては地域活動支援センターという名称のほうが分かりやすいのではないかと考えておりまして、こちらはそのまま記載させていただきたいと思います。また、全体的なご説明になるのですけれども、東京都からまだ情報が来っていない部分については、先ほど都から報告が来たらというような何かしら注記ですとか、補足をさせていただきたいと思っております。来週答申を迎えますので、内容が分かった際には、委員の皆様にはデータ等でご承認いただく可能性があることを改めてご了承いただければと思います。以上です。

会長：はい。ありがとうございました。今、補足のご説明がありましたけども、何かそれについてのご質問とかありますか。大丈夫ですか。ではご確認いただけたということで、次の議題に入らせていただきます。

### 3 府中市子ども発達センターについて

会長：府中市子ども発達支援センターについて、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局：はいそれでは、府中市子ども発達支援センターのご報告をさせていただきます。本日お配りしましたA4横の府中市子ども発達支援センターという紙をご覧くださいながら、よろしくお願いいたします。府中市におきまして整備を進めております児童発達支援センターにつきまして、令和5年の第3回府中市市議会定例会において府中市子ども発達支援センター条例として承認されましたので、施設の名称が決まりまして、府中市子ども発達支援センターとなりました。現在、利用する方に親しみを持っていただけるよう愛称についても募集しているところでございます。それでは、本センターの概要について説明させていただきます。本センターにつきましては、お配りした資料の裏面になりますが、府中本町駅から徒歩7分程度の場所、京王線沿線にございます。こちらは、旧府中市の矢崎幼稚園の跡地となっております。表面に戻っていただきまして、本センターでは児童発達支援事業や保育士等訪問支援といった発達に関する支援だけでなく、教育相談や就学相談を一体的に実施することで福祉と教育の連携を図ってまいります。この施設の利用対象者でございますが、発達または学校生活における課題などを抱える0歳から18歳の子どもとその家族としておりまして、手帳の有無は問わないものとなっております。施設のコンセプトにつきましては、児童期における、ライフステージが変化しても途切れない支援を、としております。教育センターより教育相談、就学相談機能を移転し、福祉と教育の連携による一体的かつ切れ目ない支援を実施してまいります。また、教育センターと子育て世代包括支援センターと連携が必要になってまいりますので、情報の共有できる総合相談記録システムを核施設に導入し、随時、情報の共有が図れるように取り組んでまいります。本センターの利用の流れとしましては、全体のワンストップ窓口として総合相談を設置しまして、そこを起点にセンターにおける各種事業へのつなぎを行うことで、利用者の利便性の向上を図ってまい

ります。また、母子保健部門をはじめとした関係機関との連携、保育所や幼稚園、学校、障害児通所支援事業所といった市内の子どもが所属する施設との発達に関する支援及び連携体制を強化し、地域支援という視点からも事業を展開してまいります。実施する事業といたしましては、お配りしました資料の通り、主に3つの支援を、総合相談支援、療育支援、家族・地域支援という大きく3の支援を行ってまいりまして、相談支援としましては、総合相談、総合窓口としてセンターのワンストップを担ってまいります。発達相談として、発達に関する相談に対応し、子どもの成長や環境に合わせた支援をおこなってまいります。指定障害児・指定特定相談として、障害児通所支援や障害福祉サービスの利用計画作成等に係る支援を行ってまいります。教育相談・就学相談として、学校生活に関する相談や、発育等で心配事のある子どもの就学に関する相談に対応してまいります。療育支援としましては、2つの事業を展開しまして、児童発達支援事業として、通園形式による療育支援を行ってまいります。外来集団・個別指導に関しましては、現在の通園、通学先との並行通所による集団または個別での療育支援を行ってまいります。家族・地域支援としましては、保育所等訪問支援事業で保護者からの依頼に基づき、子どもの所属先へ訪問し支援を行ってまいります。関係機関巡回支援として、保育所や幼稚園等からの依頼に基づき、専門職が依頼先の職員に対して助言を行ってまいります。研修や勉強会でございますが、保護者及び関係機関を対象に行ってまいります。本センターにつきましては、ワンストップの総合窓口、施設管理のほか、教育に関する部分を市の直営で行いまして、それ以外の発達障害に係る専門的な事業につきましては、府中市社会福祉協議会へ委託して事業を実施してまいります。開設日につきましては、令和6年の4月1日を予定しておりまして、現在、開設に向けた準備を進めているところでございます。報告については以上となります。

会長：はい、ありがとうございました。ではこちらの子ども発達支援センターについて何かご質問がありましたらお願いします。よろしいですか。はい、委員。

委員：この対象者というところですね、0歳から18歳、これだともうすごい幅が広くて、0歳からと、児童、生徒まで、高校生ですよ18歳という。その辺の連携的な問題で、個別でそういう仕分けみたいなもの、分類のような形のものが今、できているのかということと、ほとんど7歳からだ学校は行って、特別支援学校とか、そういうところ以外にも普通の学

校でも小、中ですね、特別教室とか、保健室登校とか、そういういろんな登校をしている生徒も含めているとは思いますが、そのような連携というのは今、できてるのかどうか、ということをも2つ質問したいです。

会長：はい、では1つは、0から18って幅広い年齢をどう対応していくか、ということでよろしいですか。

委員：はい。

会長：もう1つは、総合教育センターみたいな感じで。

委員：学校との連携。

会長：学校との連携がどうなのかということ。はい、ではいかがでしょうか。

事務局：はい、まず0歳から18歳までの幅広い年齢に対する対応でございますが、まず発達に係る、いわゆる通年で通ってくるお子さんにつきましては、未就学児を対象としておりまして、就学されてからは個別の相談という形で、個々に対応してまいりたいと考えております。学校との連携でございますが、本センター3階建てになります、3階部分が主に教育相談、就学相談を行ってまいります。その中で、教育の者もこの施設に入ってきますので、そういったところで福祉部門と教育部門が連携することによって、より学校のほうへもアプローチしやすい環境を整えているところでございます。

会長：よろしいでしょうか。

委員：では、あくまでも学校とはまだ接点はできてないんですね。

会長：3階は、教育委員会の一部が入るというそういう理解でいいのですか。

事務局：教育部門が入ってきて、複合施設のように見えるんですけども、あくまでも一体的ということになりますので、福祉は福祉のほうしか見れないというわけではなくて、両方が情報共有して、一体的になっているところというか、学校との連携につきましては、まだ事業のどのよう運営していくかというところで、これから構築していきたいと思っております。

す。

委員：はい、わかりました。6年の4月1日からということなんですけど、あともう1つですね、発達支援センターなので、発達障害の人が結構対象になると思うんですけど、ある程度病気ですよ、ADHDだとか、自閉症だとか、そういう対象になっていくんですよ。どういう想定っていうか、子どもの発達支援というのはどこの辺の定義なのかなと思って。

会長：利用の対象者像がどうかというご質問だと思うのですが。いかがでしょうか。

事務局：特にこの方の対象ではないと施設に相談してはいけないというところではなくて、生活するうえで、発達なり学校生活においてもし気になったことがあれば、まずこちらに相談していただいて、もしその相談内容においてふさわしい専門するところがあれば、そこに連携してつないでいくとかっていうところを考えているところでございます。

会長：よろしいでしょうか。はい。かなり幅広い方に対応しています。中には発達障害の方が含まれてくるでしょうが。はい、では、委員。

委員：この施設は0歳からということですね、保育園の機能とかそういうものはないわけですか。週に毎日通所して、ここで機能の訓練を受けるとかそういう機能はないわけでしょうか。何かとても広いので、いろいろな器具を置いておいて、どのような、どの部分の発達が遅れているかっていうようなところを、確認していただくということもできるのかなと思うんですけど、いろいろな器具を使って、他の発達支援センターのようなところはね、何かやってらっしゃるようですけど。そういうところはないのですか。このお部屋は、どういうふうに使われるのでしょうか。

会長：では、事務局からお願いします。

事務局：はい、お配りした資料の表面では、実施する事業の中の、療育支援の中の、児童発達支援事業の通園形式による療育支援。裏面でいきますと、その療育支援を行うところが、2階の平面図になりまして、こちらに通園という形で通所していただいて、器具等使って療育を行っていくところになります。

委員：この一つのお部屋はどのぐらいの人数が入れるのですか。幼稚園ですからそこまで広くはないでしょうが。

会長：通園の定員は。

事務局：ガイドラインで一人当たりの面積というのが決まっておりますので、それを十分満たすような部屋にしておりますので、面積に応じて何人まで入れるというのが決まっておりますので、すみません具体的な活動室一つ当たりの平面数まで今日持ち合わせていないですけれども、ガイドラインに沿った造りはしているところです。

会長：児童発達支援事業の定員は何人ですか。

事務局：この事業につきましては、定員が 40 人となっております。

会長：はい、ありがとうございます。では、よろしいですか。

委員：通園形式のお子さんが 40 人ということですか。

会長：そういうことですな。

委員：大きな体の発達を見られるような器具とか、そういうものを使って指導していただくというようなことはできていますか。できないですか。

会長：大きな。

委員：ブランコだとか、ジャングルジムとか、そういうような器具を置いて。

会長：遊具。

委員：遊具です。

会長：遊具が設置されるかっていうご質問。

事務局：吊り具とかっていうことですかね。



委員：大きなジャングルジムとか、ブランコとか、いろいろなね、お子さん、障害支援については、いろいろな遊具を使って指導をしてらっしゃるセンターがあるようなんですけれど、そういうものを使ってということではないんですか。このお部屋は、何もないお部屋で、集まって指導するという。

事務局：運動するための遊具としては、天井に紐をくっつけて、紐というイメージつかないかもしれませんが、公園にあるようなブランコだとか、それからジャングルジムだとかは設置はしていませんので、子どもの運動能力を高めるというところでの器具については設置をしています。遊びながら体を丈夫にしたりですとか、それから他者との関係を築いていったりだとかというような部分は進めながら、療育を提供するような流れになるので、保育園とか幼稚園にあるような遊具については設置していません。

会長：ぜひ、見学していただけると具体的に分かるんじゃないかと思いますので。

委員：そうですね。沖縄の方の、こういう施設のところちょっと見せていただいたことがあるのですが、かなり大きな部屋の中にね、大きな器具を使って楽しそうにお子さんたちがとってもののびのびと体の訓練をしたりしてらっしゃるようだったので、そういうような施設になるといいと思いますので。

会長：はい、分かりました。

委員：はい、よろしくお願いいたします。

会長：ぜひ、オープンしたら見学に来てください。

委員：はい、見せていただきたいと思います。

会長：では、委員お願いします。

委員：中嶋です。素朴な疑問ですけれども、これって相談事業、教育相談とか

就学相談というところから入ると思うのですが、0からっていうことなので、そういう保護者の方が例えば、研修とか、勉強会とか、そういうのを開催したときに限定の託児とか保育とか、そういうサービスは考えているのでしょうか。

会長：おそらく、乳幼児健診のような形で、こちらに紹介があるのではないかと、私はそう思って。

委員：違います。小さいお子さんをお家に置いて来れない人はいますよね。あと、小さくなくてもお家に置いて来れなくて相談に行きたい保護者に対する支援というので、保育とか、託児とか、一時預かりとか、そういうのがあるのかという質問です。

会長：では、連れてきたときに対応が。

事務局：現状ですと、教育支援の外来集団・個別指導に来られた方で、例えば、ご兄弟がいたときに一時的に預かる、預かり室というものを1階に設けておりますので、そこで、サービスを受けているときに一時的に預かりをさせていただきます。

委員：ありがとうございます。

会長：ではよろしいでしょうか。子ども発達支援センター。それでは、あと10分、なるべく今日、障害者計画の進行管理が少しでも進んでおくと次が楽になります。はい、ではあと10分ありますけれども、一応ここで今日の議事については終了いたしたいと思います。これで第7期の障害福祉計画と第3期の障害児福祉計画の策定が終わります。皆さん本当にご協力ありがとうございました。では、事務局のほうでお願いします。

事務局：最初のほうにご説明いたしましたとおり、10月19日木曜日、市長答申を行う予定でして、11月22日から12月21日までパブリックコメントを実施予定です。次回の12月の協議会は、12月14日木曜日、本日と同時刻、同会場で行う予定でございます。今年度の協議会は全部で5回予定しておりますので、残り2回となっております。最後の回については、年明けの2月または3月あたりを予定しておりますので、また詳細についてはご案内いたします。事務局からは以上になります。

会長：はい、ではこれで障害者計画推進協議会を終了させていただきます。皆さんどうもお疲れ様でした。お疲れさまでした。ありがとうございました。